

阪神

三田

支局長
からの
手紙

冒頭から私事で恐縮ですが、約30年前の高校時代を振り返り「青春したなあ」と感じるのは部活動です。陸上競技部のマネージャーで、同期や先輩後輩と楽しさ喜びを共有し、幾多の涙も流しました。コロナ禍で総体など中止が決



ねました。武庫川女子大学付属中・高コーラス部(西宮市、95人) 写真①は、全日本合唱コンクール全国大会に27回連続出場などの実績を誇ります。私は昨年、生の歌声に接して

まった時、私も落胆しました。特に3年生は目標だけでなく仲間と過ごす大切な時間が奪われるなんて、と胸が痛んだのです。

レベルの高さに感嘆しました。休校中、部員は自宅で練習を続けたそうです。顧問の岡本尚子教諭による、通話アプリを使ったグループレッスンも。そして、

コロナに負けない部活動

目標とする大会の一つが中止となった5月のある日の夜、オンラインで部会を開き、動画投稿サイト「ユーチューブ」を使ったリモート合唱発信に、高校生が学年別で挑戦することを決めました。

畿地区優勝した強豪です。3月に開催予定だった第92回選抜高校野球大会では出場校ブランクワード文字の揮毫を3校分担当しましたが、センバツも、目標の一つだった夏の大会も中止になりました。同部員が取り組んだのも動画でした。医療従事者への感謝の気持ちを書で表現するなど4本をユーチューブで発信したのです。

彼女たちの前向きな姿勢と行動力に圧倒されました。皆が集まり一緒に歌うことの幸せを実感しました」と話すのは部長の八尾鈴葉さん。3年幹部はマスク越しに「多くの人々を感動できるように活動していきたい」と笑顔をみせてくれました。今は高校全学年で新しいリモート合唱に取り組み中。近々の配信予定が楽しみです。先の動画は、クラブ名で検索できます。

くよくよしていた我が身が恥ずかしくなるほど、元気をもらった取材でした。2クラブに共通していたのは「今できることを考え、知恵を出し合い、前向きに取り組む」。部活動ならではの結束力は時代が変わっても不変でした。

県立芦屋高書道部(芦屋市、20人)は、国際高校生選抜書展(書の甲子園)団体の部で2年連続近

【阪神支局長・岸桂子】